

修士学位論文要旨

(通信制) 保健科学研究科

学生番号 M971901

氏名 伊藤 竜司

地域在住高齢者の作業参加と環境要因、抑うつ、健康関連 QOL の相互関係

—軽度認知障害者と健常者間の多母集団同時分析による比較検討—

背景と目的

昨今、正常加齢と認知症の境界領域である軽度認知障害（以下、MCI）が着目されている。MCI 者の約半数は5年以内に認知症に移行し、健常者とは明らかに高い発症率を示す一方で、正常な認知機能に回復（以下、リバート）することもある。国内では Shimada ら（2017）が MCI 者の約 44% が 4 年後の調査でリバートしたことを報告している。また、Makizako ら（2016）によって MCI 者の 32% が抑うつを併発しており認知症リスクが 4.8 倍高くなること、Maki ら（2014）によって MCI 者の抑うつと健康関連 QOL に関連があることが明らかにされている。これらから、MCI 者の抑うつや健康関連 QOL 低下に対処する必要性が考えられる。

一方、保護因子には適度な運動や認知訓練と運動の併用が推奨される。それらに加え、社会参加や知的活動、余暇活動への参加、社会的ネットワークの促進などが報告されている。これらは従来から作業療法の専門領域とされ作業参加として捉えることができる。これまでに、MCI 者を含めた地域在住高齢者に対する介入研究において、川又ら（2010）が作業参加を促進することで健康関連 QOL が向上すること、Lam（2010）らが環境支援によって抑うつが軽減することを明らかにしている。これらから、地域在住高齢者において環境要因が作業参加、抑うつに影響し、作業参加と抑うつが健康関連 QOL に影響を及ぼすと考えられる。また、環境要因は健康関連 QOL に対しても直接的に影響し、作業参加は抑うつにも影響を及ぼすと考えられる。これらの関係性について MCI 群と健常者群で配置不変性を検討する仮説モデルを作成した。

本研究の目的は仮説モデルの検討によって、MCI 者と健常者間における違いを明らかにすることである。意義として地域高齢者の認知症予防に向けた作業療法プログラムの構築につながる知見が得られる。

対象と方法

対象は 65 歳以上の地域在住高齢者で、居宅サービスや総合事業の利用者、または地域で開催されている健康教室、高齢者サロン、ボランティアなど地域活動への参加者 207 名とした。

調査は、日本語版 Montreal Cognitive Assessment (以下, MoCA-J), 基本情報アンケート, 自記式作業遂行指標 (以下, SOPI), 包括的環境要因調査票簡易版 (以下, CEQ-SF), 老年期うつ検査-15-日本語版 (以下, GDS-15-J), SF-12 を実施した。これらは調査開始から2週間以内に全ての調査が終了するものとした。研究期間は2020年3月1日から10月31日の間であった。分析は各調査の記述統計とMCI群と健常群の比較, SOPI, CEQ-SF, GDS-15-Jの項目分析, SOPI, CEQ-SF, SF-12の確認的因子分析, 相関分析による共変量の検討, 構造方程式モデリング (以下, SEM) を用いた多重指標モデルの検討, 多重指標モデルに対するMCI群と健常群の多母集団同時分析を実施した。

結果

各調査の結果をMCI群と健常群で比較したところ, 年齢, 要介護度, CEQ-SF, GDS-15-Jにおいて群間の有意差が認められた。項目分析では識別力, 困難度ともに基準を満たしていた。確認的因子分析ではCFI, TLIは基準内であった。相関分析では, 認知機能と作業参加, 抑うつのいずれとも相関を認めた要介護度を共変量として採用した。多重指標モデルの検討では, 作業参加から抑うつへのパスが非有意となった。非有意パスを削除した修正モデルを再検討したところ適合度はCFIが0.972, TLIが0.970と良好であった。このモデルでは環境要因が作業参加, 抑うつに強く影響し, 作業参加と抑うつが健康関連QOLに強く影響していた。しかし, 環境要因が健康関連QOLに直接与える影響は弱かった。多母集団同時分析では修正モデルを用いて検討した。配置不変性と測定不変性を比較し, AICとBICの結果から配置不変性モデルを採用した。このモデルでは, MCI群では健常群に比べて環境要因から作業参加と抑うつに対して強く影響を与えること, 健康関連QOLに対して抑うつの影響が弱まり作業参加の影響が強くなる傾向を示した。また, 健常群は環境要因よりも個人の能力が作業参加や抑うつに影響し, それらが健康関連QOLに影響を及ぼすことが明らかとなった。

考察

仮説モデルの検討によって, MCI群では健常群に比べて環境要因から作業参加と抑うつに対して強く影響を与え, 健康関連QOLに対して抑うつの影響が弱まり作業参加の影響が強くなる傾向を示した。これらから, MCI者の環境要因は作業参加を高めて, 抑うつ症状を抑える働きが期待できること, MCI者の作業参加は健康関連QOLへの影響が抑うつより相対的に強くなり, 認知症の危険因子とされる抑うつより大きな意味をもつと考察される。

以上より, MCIからのリポートには, 環境支援により作業遂行を高めて作業参加の促進し, 抑うつを軽減させるための支援が有用ではないかと考えられる。この知見は, 地域在住高齢者の認知症予防に向けた作業療法に活用できる。